

平成29年度の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
当面の課題について

平成29年7月25日



一般社団法人 Jミルク  
Japan Dairy Association (J-milk)

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 29 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 29 年度の気温は、高めで設定。

表 1-1 : 平成 29 年度の地域別生乳生産量 (見通し)

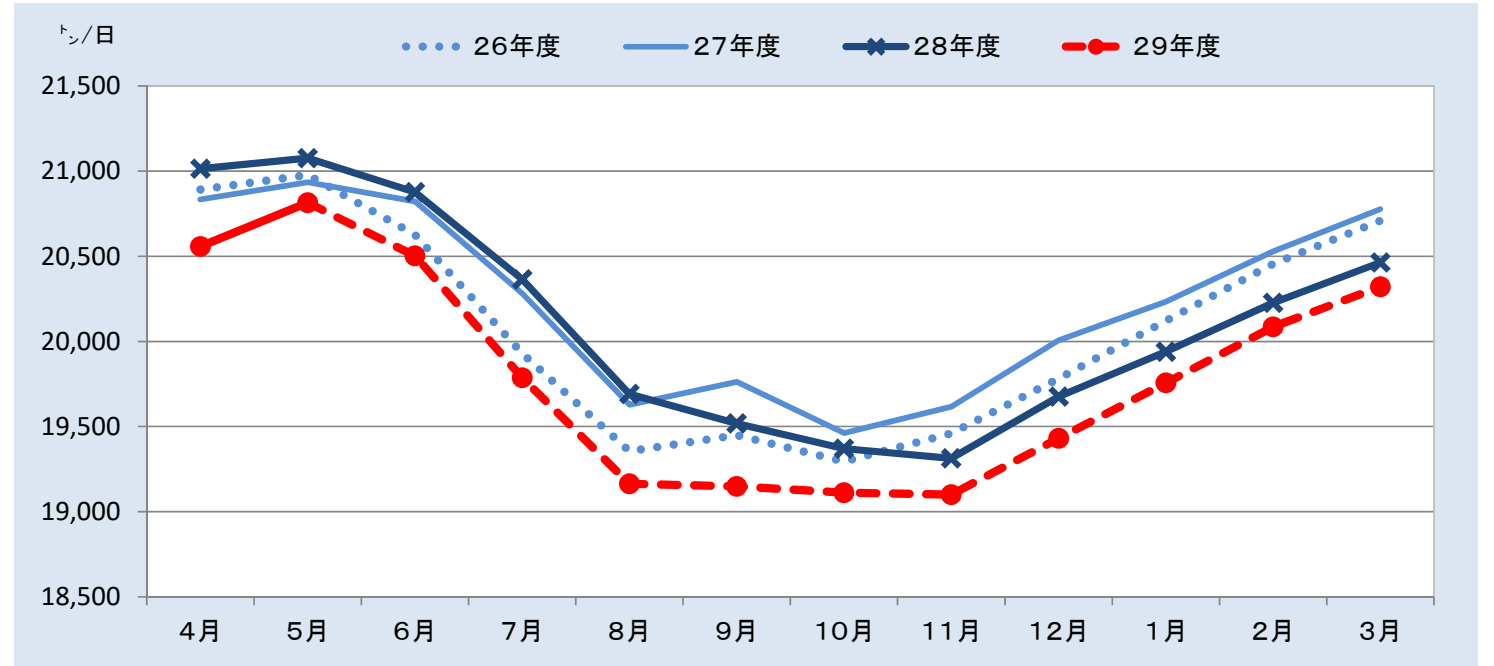
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	617	97.8%	321	97.7%	296	97.9%
5 月	645	98.8%	339	98.7%	306	98.8%
6 月	615	98.2%	329	97.6%	286	98.9%
7 月	613	97.2%	336	97.8%	278	96.4%
8 月	594	97.3%	328	99.3%	266	95.0%
9 月	574	98.1%	314	100.2%	260	95.7%
10 月	592	98.7%	320	100.3%	272	96.8%
11 月	573	98.9%	308	100.7%	265	96.8%
12 月	602	98.8%	324	100.5%	278	96.8%
1 月	612	99.1%	328	101.2%	284	96.8%
2 月	562	99.3%	300	100.9%	263	97.5%
3 月	630	99.3%	334	100.8%	296	97.7%
第 1 四半期	1,877	98.3%	989	98.0%	888	98.5%
第 2 四半期	1,782	97.5%	978	99.1%	804	95.7%
第 3 四半期	1,768	98.8%	952	100.5%	816	96.8%
第 4 四半期	1,805	99.2%	961	101.0%	843	97.3%
上期	3,659	97.9%	1,967	98.5%	1,692	97.2%
下期	3,573	99.0%	1,913	100.7%	1,659	97.1%
年度計	7,232	98.4%	3,880	99.6%	3,351	97.1%

※表は、着色部分が実績、白枠部分が予測 (平成 29 年 6 月以降)。以下、全て同様。

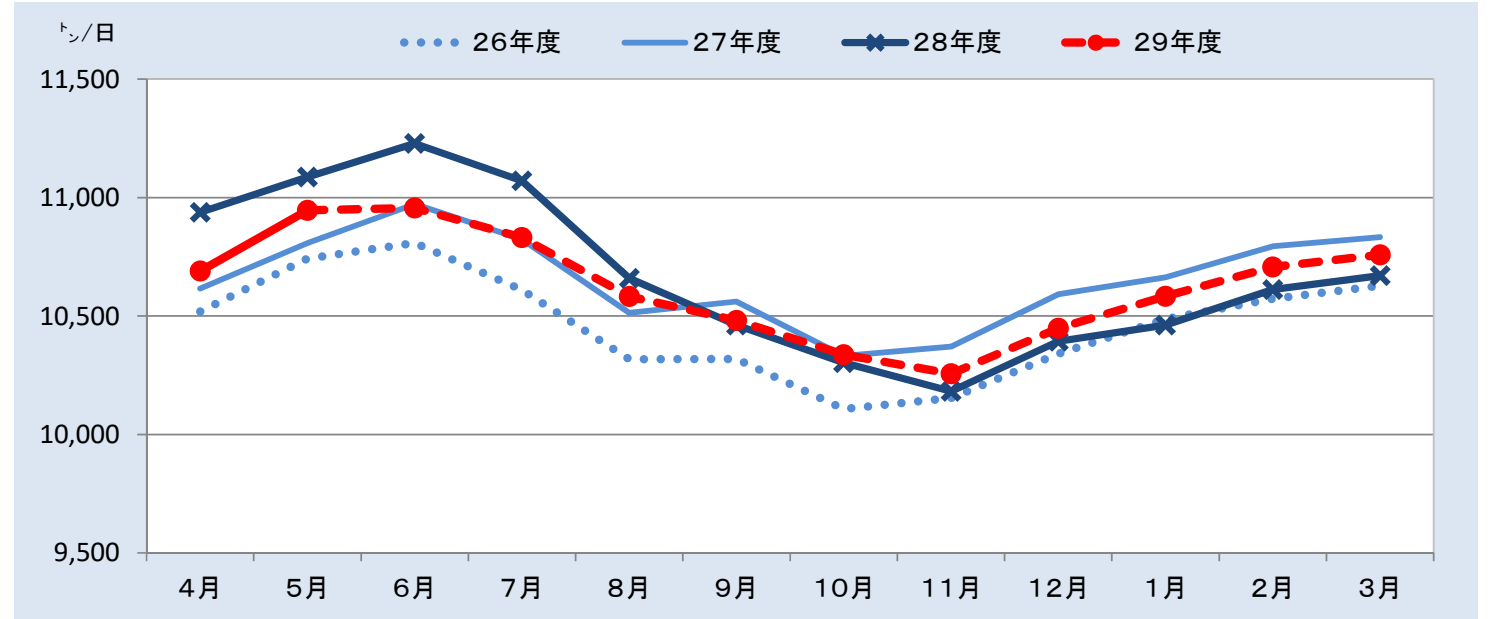
## 【生乳生産量の見通し】

29 年度の生乳生産量は、北海道ではほぼ前年並み (3,880 千トン・前年比 99.6%) であるものの、都府県では前年度を下回り (3,351 千トン・同 97.1%)、その結果、全国の生乳生産量は前年度を下回る (7,232 千トン・同 98.4%) 見通しである。

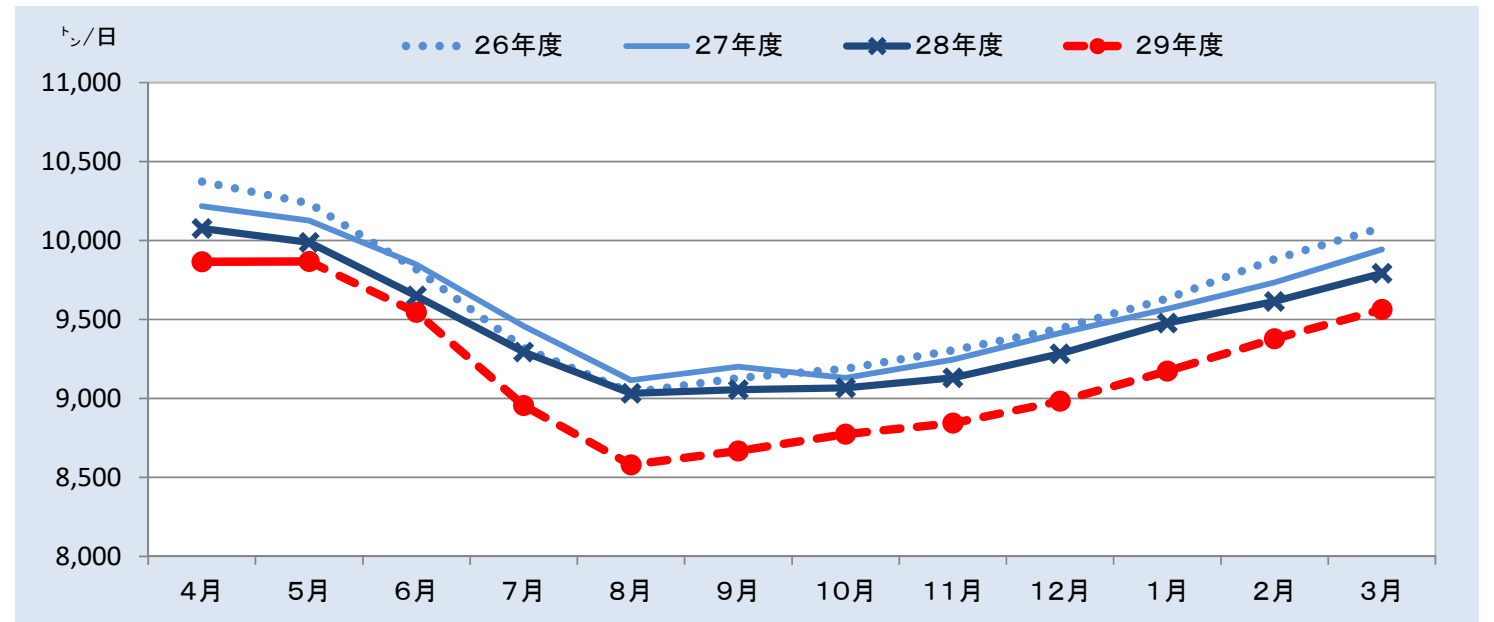
グラフ 1-1 : 全国の生産量 (日均量)



グラフ 1-2 : 北海道の生産量 (日均量)



グラフ 1-3 : 都府県の生産量 (日均量)



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成 29 年 5 月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、生乳生産の予測では、平成 29 年度の気温が高めの場合の予測値を採用したが、牛乳等生産量の予測では、特に今夏の都府県の生乳需給がひっ迫基調で推移する見通しを受け、製品間の弾力的な供給体制に取り組んでいる状況等を踏まえた予測値を採用。

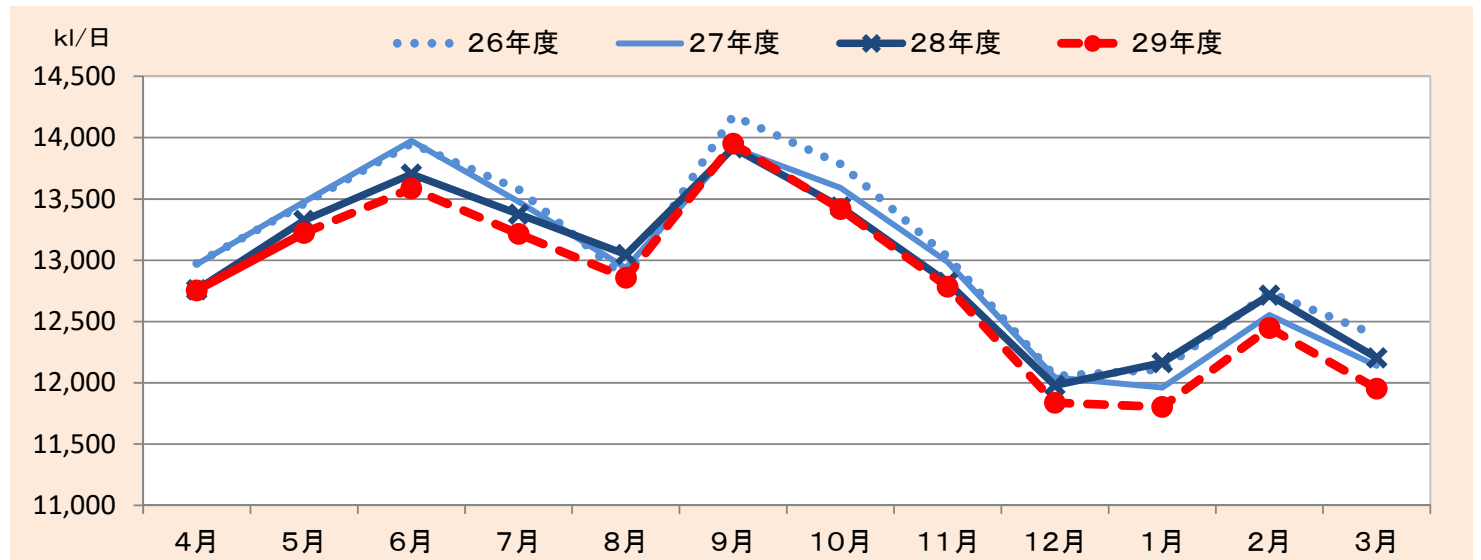
表 2-1：平成 29 年度の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	383	100.0%	249	101.5%	8	95.3%	29	104.9%	97	95.2%	92	94.9%
5月	410	99.2%	267	100.3%	8	90.6%	30	102.6%	105	96.5%	96	96.5%
6月	408	99.1%	266	99.8%	7	94.1%	29	101.4%	106	97.3%	94	99.5%
7月	410	98.8%	257	99.3%	7	94.1%	31	102.0%	114	97.2%	94	101.1%
8月	399	98.6%	244	98.7%	8	93.6%	31	100.7%	115	97.9%	91	100.5%
9月	419	100.3%	268	100.4%	8	96.6%	30	101.3%	112	99.9%	92	102.1%
10月	416	99.9%	270	99.4%	8	96.1%	29	101.6%	109	101.0%	94	101.3%
11月	384	99.7%	254	99.2%	8	93.1%	27	100.9%	94	101.4%	87	99.7%
12月	367	98.8%	242	99.1%	9	92.8%	26	100.1%	89	98.3%	85	100.1%
1月	366	97.0%	242	97.0%	8	88.5%	27	96.5%	88	98.2%	89	101.3%
2月	349	97.9%	233	97.7%	8	89.2%	25	97.1%	82	99.7%	86	103.8%
3月	371	97.9%	241	97.8%	8	91.2%	28	97.3%	94	99.1%	97	105.0%
第1四半期	1,200	99.4%	782	100.5%	23	93.3%	88	102.9%	308	96.3%	282	97.0%
第2四半期	1,227	99.2%	770	99.5%	23	94.8%	92	101.3%	341	98.3%	277	101.2%
第3四半期	1,166	99.5%	766	99.2%	25	93.9%	83	100.9%	292	100.3%	266	100.4%
第4四半期	1,085	97.6%	716	97.5%	24	89.6%	80	96.9%	265	98.9%	272	103.4%
上期	2,427	99.3%	1,552	100.0%	46	94.0%	180	102.1%	649	97.4%	559	99.0%
下期	2,251	98.6%	1,482	98.4%	49	91.8%	163	98.9%	557	99.6%	537	101.9%
年度計	4,678	99.0%	3,035	99.2%	95	92.8%	343	100.6%	1,206	98.4%	1,096	100.4%

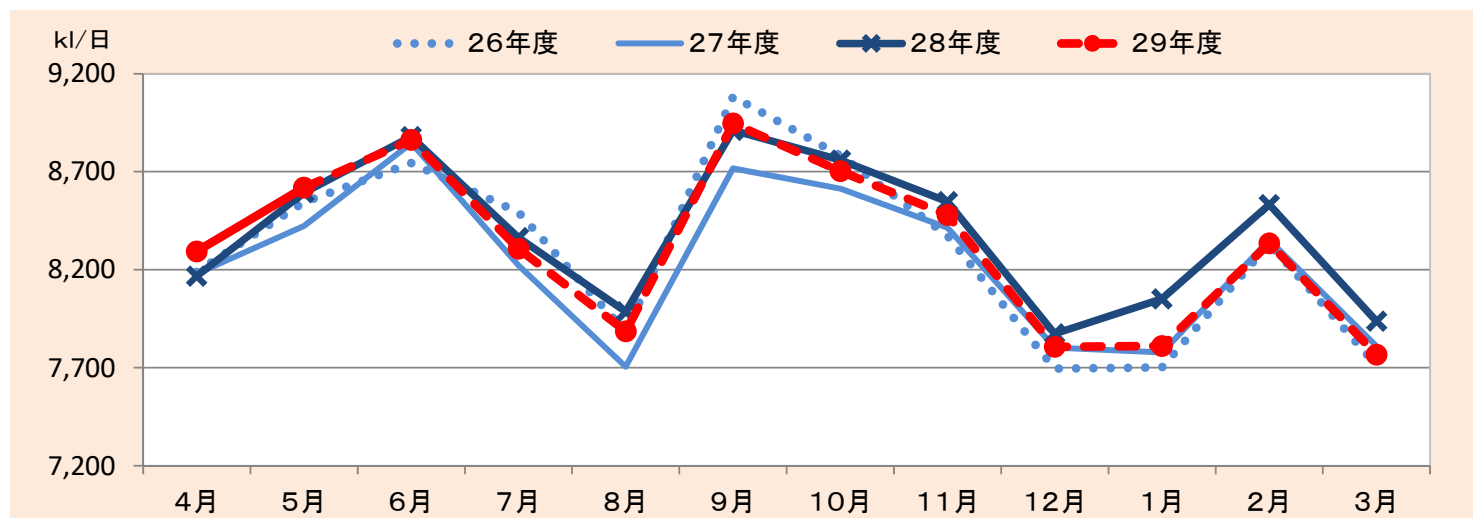
### 【牛乳等生産量の見通し】

29年度の牛乳等生産量は、「牛乳類」は前年をやや下回る（4,678千Kl・前年比99.0%）の見通し。「はっ酵乳」は、大きな伸びは一巡するものの、引き続き堅調な需要が見込まれることから前年をやや上回る（1,096千Kl・同100.4%）見通しである。

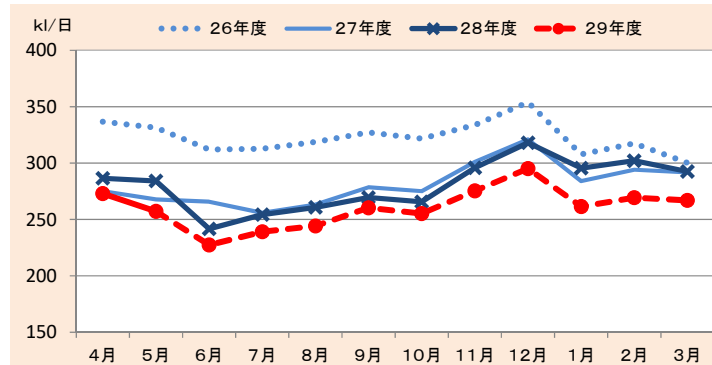
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



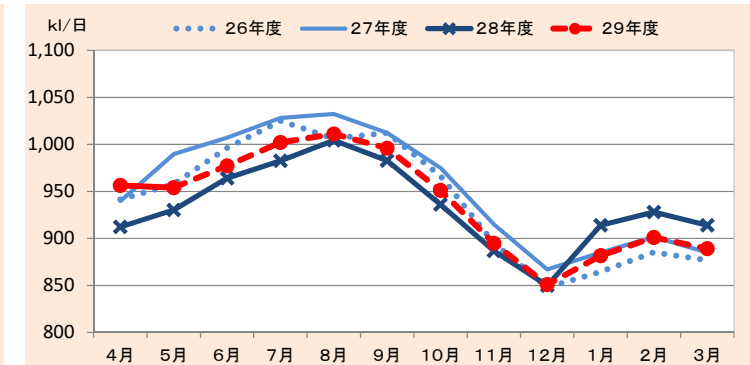
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



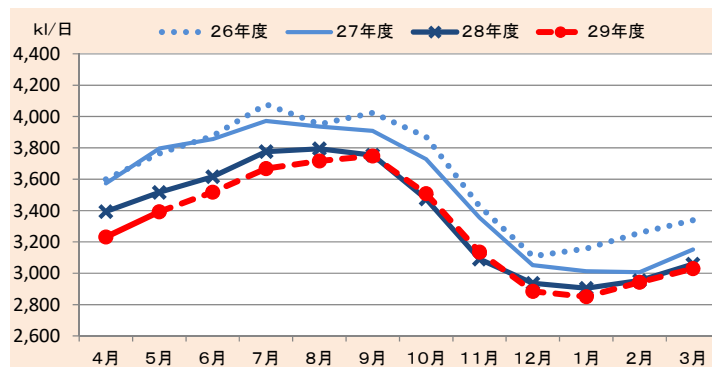
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



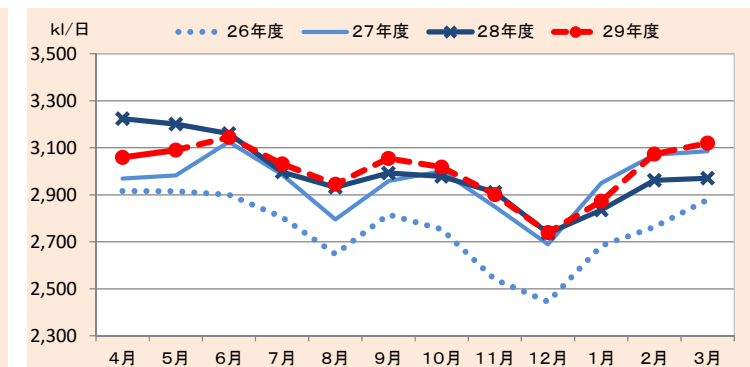
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と飲用等向処理量の差。

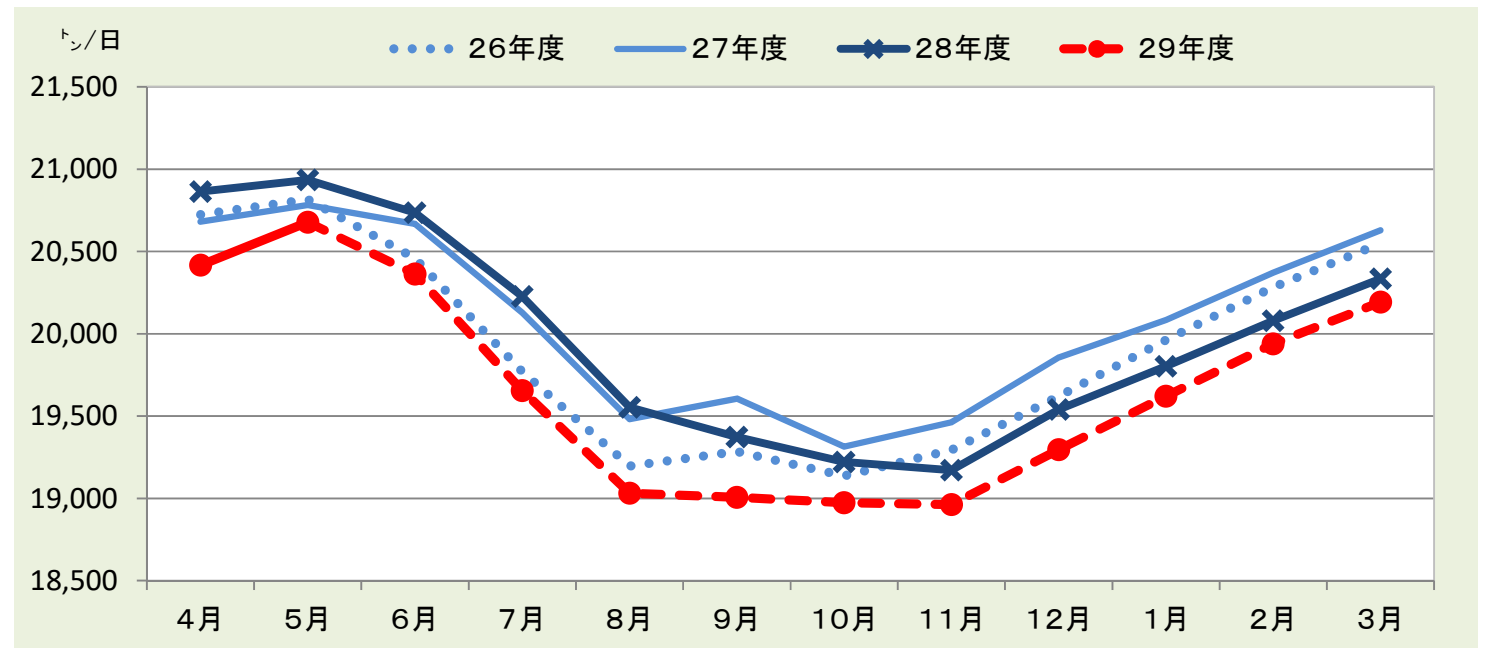
表3-1：平成29年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	617	97.8%	4	93.6%	613	97.9%	332	101.3%	280	94.1%
5月	645	98.8%	4	97.3%	641	98.8%	356	100.5%	285	96.7%
6月	615	98.2%	4	98.4%	611	98.2%	357	100.6%	254	95.0%
7月	613	97.2%	4	97.1%	609	97.2%	352	100.4%	257	93.1%
8月	594	97.3%	4	96.0%	590	97.3%	333	99.9%	257	94.2%
9月	574	98.1%	4	97.8%	570	98.1%	360	101.4%	210	93.0%
10月	592	98.7%	4	92.6%	588	98.7%	358	100.6%	231	96.0%
11月	573	98.9%	4	97.7%	569	98.9%	336	100.4%	233	96.9%
12月	602	98.8%	4	98.4%	598	98.8%	318	100.1%	281	97.2%
1月	612	99.1%	4	98.8%	608	99.1%	323	97.3%	285	101.2%
2月	562	99.3%	4	99.0%	558	99.3%	307	98.0%	251	100.9%
3月	630	99.3%	4	99.9%	626	99.3%	323	98.2%	303	100.5%
第1四半期	1,877	98.3%	13	96.4%	1,864	98.3%	1,045	100.8%	820	95.3%
第2四半期	1,782	97.5%	12	97.0%	1,769	97.5%	1,045	100.5%	725	93.5%
第3四半期	1,768	98.8%	13	96.2%	1,755	98.8%	1,011	100.4%	745	96.7%
第4四半期	1,805	99.2%	12	99.2%	1,793	99.2%	953	97.8%	839	100.9%
上期	3,659	97.9%	25	96.7%	3,634	97.9%	2,089	100.7%	1,545	94.4%
下期	3,573	99.0%	25	97.7%	3,548	99.0%	1,964	99.1%	1,584	98.9%
年度計	7,232	98.4%	50	97.2%	7,182	98.5%	4,053	99.9%	3,128	96.6%

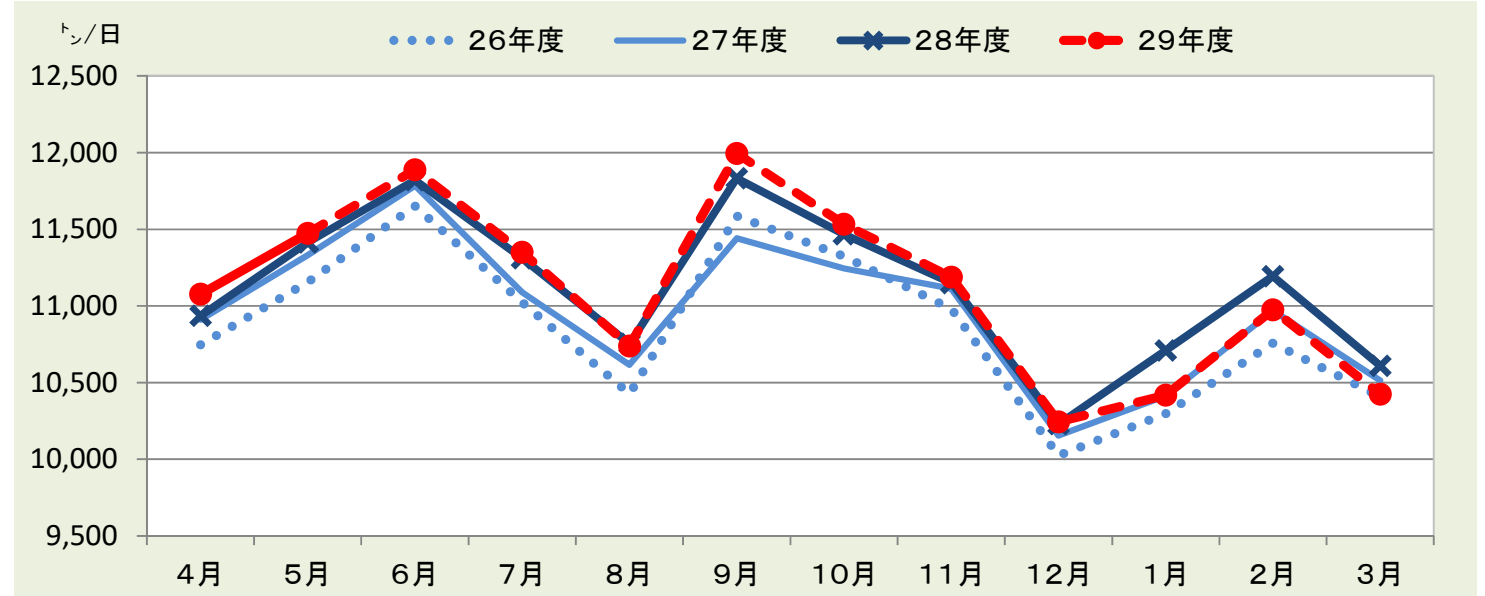
#### 【用途別処理量の見通し】

29年度の用途別処理量は、「生乳供給量」が前年度を下回る(7,182千トン・前年比98.5%)見込みのなか、「飲用等向処理量」はほぼ前年並み(4,053千トン・同99.9%)と見通され、その結果、「乳製品向処理量」は前年を下回る(3,128千トン・同96.6%)見通しである。

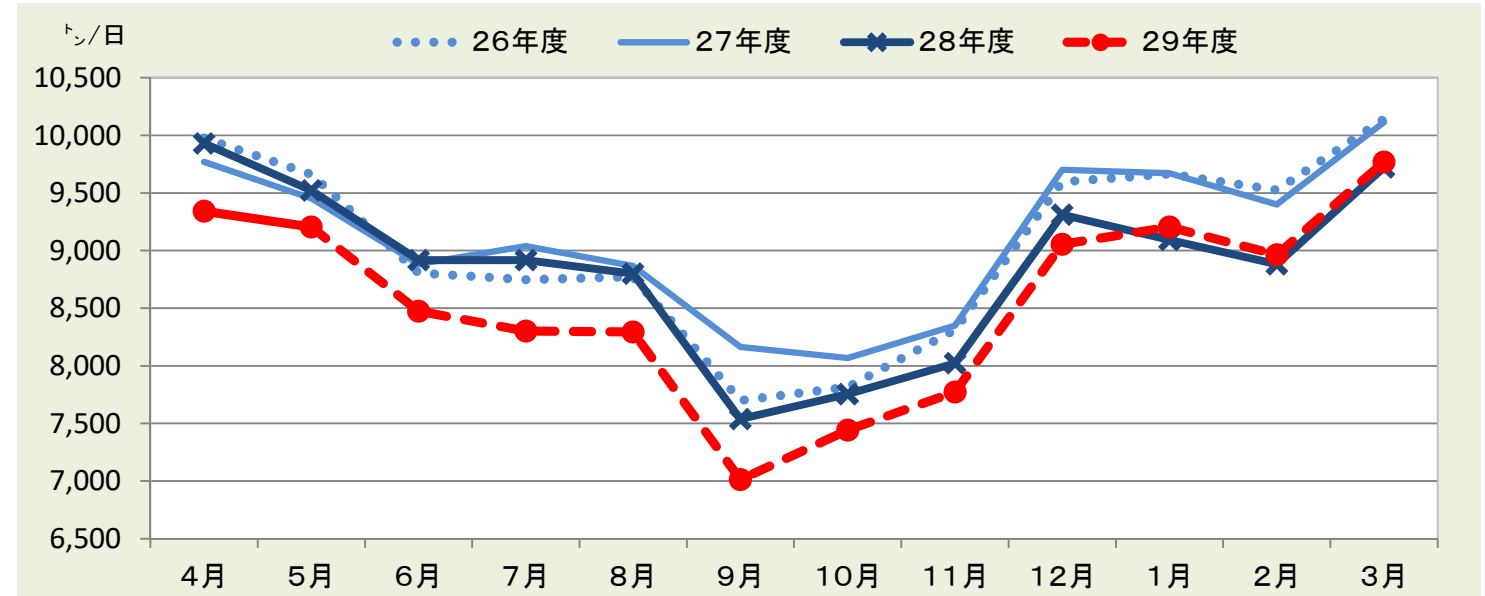
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4-1：平成29年度の都府県の需給（見通し）

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)		移出量	脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比			
4月	294	97.9%	279	100.9%	14	105.0%	2	25	121.5%	0	27	84.2%
5月	304	98.8%	303	100.6%	12	97.6%	-11	31	116.3%	0	20	95.5%
6月	284	98.9%	302	99.9%	11	92.8%	-28	39	104.4%		10	96.3%
7月	275	96.4%	296	100.1%	11	80.4%	-32	44	116.1%		12	84.5%
8月	264	95.0%	277	99.1%	11	88.0%	-24	41	125.7%		16	91.6%
9月	258	95.7%	300	100.2%	11	83.1%	-53	58	119.5%		6	91.9%
10月	270	96.9%	301	99.9%	11	87.7%	-42	51	113.6%		8	90.9%
11月	263	96.9%	282	99.8%	12	91.5%	-31	40	113.9%		9	82.3%
12月	276	96.8%	265	99.5%	13	90.4%	-2	29	109.2%		26	86.9%
1月	282	96.8%	272	98.1%	10	65.8%	-0	24	92.6%		24	98.7%
2月	260	97.5%	260	97.7%	7	63.5%	-7	24	85.2%		17	98.5%
3月	294	97.6%	270	97.2%	11	85.6%	13	22	87.6%		35	99.4%
第1四半期	881	98.6%	883	100.4%	36	98.7%	-37	95	112.4%	0	57	90.0%
第2四半期	797	95.7%	873	99.8%	33	83.8%	-109	143	120.1%		34	89.0%
第3四半期	809	96.8%	848	99.8%	36	89.9%	-76	120	112.6%		44	86.6%
第4四半期	837	97.3%	802	97.7%	29	71.6%	6	70	88.4%		76	99.0%
上期	1,678	97.2%	1,756	100.1%	69	91.0%	-146	238	116.9%	0	91	89.6%
下期	1,646	97.1%	1,650	98.7%	65	80.7%	-69	190	102.3%		120	94.0%
年度計	3,324	97.1%	3,405	99.5%	134	85.6%	-215	427	109.9%	0	212	92.1%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

29年度の都府県の生乳需給は、「生乳供給量」が前年度を下回る（3,324千ト、前年比97.1%）一方で、「飲用等向処理量」は比較的堅調な需要（3,405千ト、前年比99.5%）が見込まれる。その結果、北海道から都府県への「移入必要量（道外移出量）」は、需要期を中心に前年水準と比較して増加するものと見込まれる。

#### 5. 乳製品需給の動向

##### 【脱脂粉乳・バター需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、平成29年5月までの推定出回り量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量を基に算出。

表5-1：平成29年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
第1四半期	48.2	93.6%	31.9	94.9%	4.2	51.1	4.5	90.0%	33.2	99.8%
第2四半期	51.1	90.0%	23.5	86.5%	8.8	46.7	4.1	90.9%	36.7	106.1%
第3四半期	46.7	90.9%	26.4	88.7%	7.0	46.1	4.1	96.8%	34.0	101.5%
第4四半期	46.1	96.8%	34.2	104.1%	14.0	61.2	5.4	127.0%	33.2	96.8%
上期	48.2	93.6%	55.4	91.1%	13.0	46.7	4.1	90.9%	69.8	103.0%
下期	46.7	90.9%	60.7	96.8%	21.0	61.2	5.4	127.0%	67.2	99.1%
年度計	48.2	93.6%	116.1	94.0%	34.0	61.2	5.4	127.0%	137.1	101.1%

グラフ5：脱脂粉乳の推定出回り量及び在庫量（四半期毎）

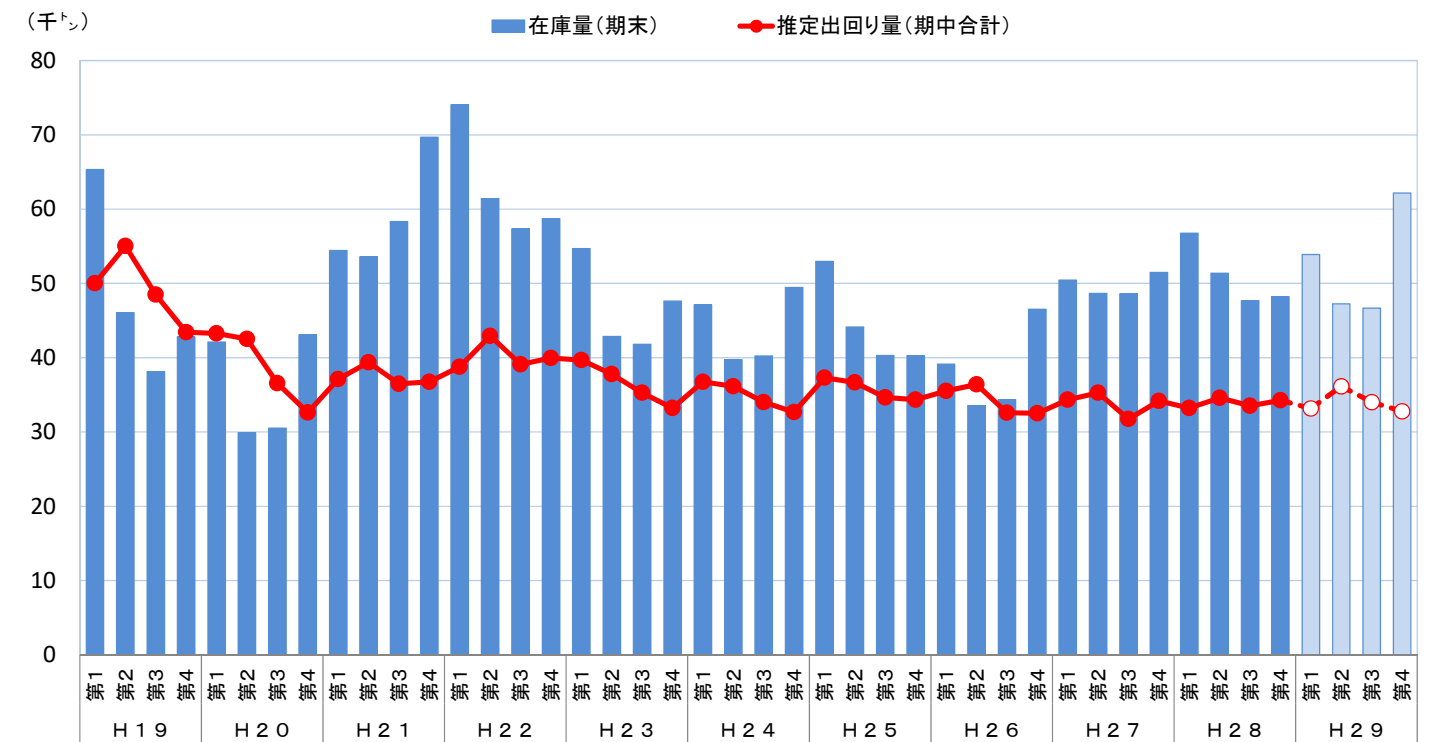
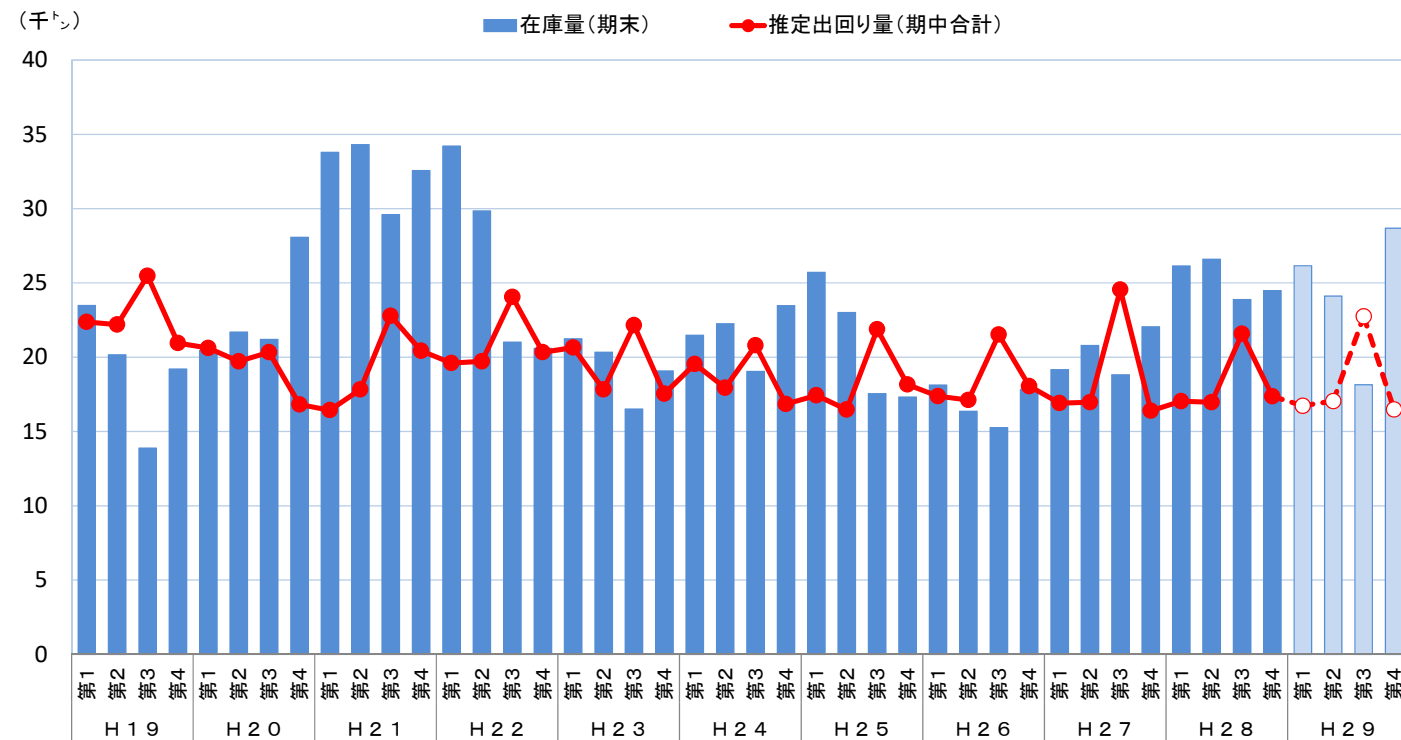


表6-1：平成29年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
第1四半期	24.5	111.0%	16.8	91.5%	1.6	26.1	4.3	99.9%	16.7	98.1%
第2四半期	26.1	99.9%	12.5	86.6%	2.6	24.1	4.0	90.7%	17.1	100.7%
第3四半期	24.1	90.7%	12.3	88.7%	4.5	18.2	3.0	76.0%	22.8	105.5%
第4四半期	18.2	76.0%	17.7	104.1%	9.3	28.7	4.7	117.2%	16.5	94.9%
上期	24.5	111.0%	29.2	89.3%	4.2	24.1	4.0	90.7%	33.8	99.4%
下期	24.1	90.7%	30.0	97.2%	13.8	28.7	4.7	117.2%	39.2	100.8%
年度計	24.5	111.0%	59.2	93.1%	18.0	28.7	4.7	117.2%	73.0	100.1%

グラフ6：バターの推定出回り量及び在庫量（四半期毎）



【脱脂粉乳・バター需給の見通し】

脱脂粉乳については、29年度の生産量は前年度を下回る（116.1千トン、前年比94.0%）見通し。輸入売渡しとして、今後、29年度輸入予定数量34.0千トンが売り渡される予定となっており、29年度末在庫量は61.2千トン（前年度末比+13.0千トン）と増加する見込みである。

バターについては、29年度生産量は前年度を下回る（59.2千トン、同93.1%）見通し。輸入売渡しとして、今後、28年度追加輸入残量及び29年度輸入予定数量の計18.0千トンが売り渡される予定となっており、29年度末在庫量は28.7千トン（前年度末比+4.2千トン）と増加する見込みである。

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 夏季における生乳生産量維持の取り組み

29年度の生乳生産量は、北海道では、昨夏の台風など飼料収穫期の天候不順による飼料品質低下等によって1頭当り乳量の低下や今春の分娩頭数が減少しており、通期では前年を下回る見込みであるものの、生産の主力となる2～4歳の乳用牛頭数は、下期以降、前年度水準に回復する見通しである。都府県では、引き続き、乳用牛頭数の減少が見込まれることから、通期で前年を下回る見込みであり、特に夏季以降、減少幅が拡大する見込みである。

このような状況下、今夏は全国的に平年よりも気温が高くなるとの予報もあることから、酪農生産現場においては、引き続き、暑熱対策など飼養管理の一層の徹底により生乳生産の減少を最小限に留める取り組みが肝要である。

(2) 飲用等最需要期に対応した弾力的な供給体制と的確な需給調整の取り組み

都府県の生乳生産量が減少する見込みのなか、飲用等需要はほぼ前年並みの見通しであることから、今夏の都府県の生乳需給はひっ迫基調で推移するものと見込まれる。

また、今後の季節予報（7～9月）では全国的に気温が高い予報であることから、本予測以上に生乳生産の減少や飲用等需要の増加も考えられることから、業界一丸となった早めの備えが重要である。

こうした状況を踏まえ、酪農乳業関係者は、都府県の学校給食用牛乳が再開する9月の飲用等最需要期に向けて、より緻密な需給情報の共有に努めるとともに、飲用等需要に対する弾力的な広域流通生乳及び製品の供給体制により、酪農乳業一体となり安定供給に努めることが重要である。

(3) 乳製品安定供給への取り組み

脱脂粉乳・バターの29年度生産量は、前年を下回って推移する見込みであるものの、国が本年5月に決定した29年度の輸入予定数量（脱脂粉乳34.0千トン、バター13.0千トン）が、今後、順次売り渡される見通しであることから、本年度の乳製品需給は安定して推移する見通しである。

国及び酪農乳業関係者は、今夏の天候要因による生乳需給への影響を注視するとともに、市場に対して適時的確な需給情報の提供に努めることが必要である。